

高齢者等が一人でも安心して暮らせる
コミュニティづくり推進会議

第2回(H.19.12.11)

資料4

愛知県愛西市役所福祉部 地域包括支援センター 鷺野明美氏資料

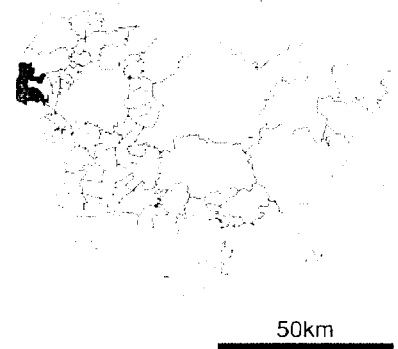
愛西市孤立死ゼロ・モデル 事業について

愛知県愛西市役所
福祉部 地域包括支援センター
社会福祉士 鷺野 明美

1

愛知県愛西市は・・・

- 人口：67,112人
- 高齢化率：20.84%
- 世帯数：21,160世帯
- 65歳以上の
 - 一人暮らし世帯：1,205世帯
 - 高齢者世帯：1,576世帯



(H19.4.1現在、一人暮らし・高齢者世帯は民生委員調査による)

2

愛西市内での孤立死は・・・

《一人で亡くなっている状態を発見されたケース》

※正確な統計はなく、市役所職員等からの聞き取りにより得られた事例の数である。

● 平成19年	7件	● 平成14年	1件
● 平成18年	9件	● 平成11年	2件
● 平成17年	1件	● 平成10年以前	
● 平成16年	3件		4件
● 平成15年	2件		

* 死亡した者の年齢:53～90歳以上

* 死亡から発見までの期間:当日～1ヶ月

3

これまでの取り組み

一人暮らしをはじめとする高齢者の生活の安心や安全を支えるため、これまでに次のような事業を行っており、孤立死の予防・早期発見にも効果がみられた。

● 緊急通報用機器一式を貸与し、急病等の緊急時に対応する緊急通報システム

● 自宅に乳酸菌飲料を配付し、安否を確認する乳酸菌飲料支給

● 栄養のバランスのとれた食事を配達するとともに、安否確認を行う配食サービス

● 住民、関係機関からの通報により行った安否確認や緊急対応など

4

目指すところは・・・

- 「助かる命であれば助けたい」
⇒ 孤立死予防
- 「死亡後はなるべく早く発見したい」
⇒ 早期発見

5

愛西市孤立死ゼロ・モデル事業の 三本柱は・・・

- (1) 孤立死予防・早期発見のための体制
整備
- (2) 孤立死に関する調査・研究
- (3) 孤立死予防・早期発見のための啓発

6

実行委員会は・・・

第1回：平成19年 8月20日（月）

第2回：平成19年10月26日（金）

《メンバー》

副市長、大学教員、地区総代、モデル地区自治会長、モデル地区担当民生委員、モデル地区老人クラブ会長、警察署地域課長、社会福祉協議会事務局局長、消防署職員、市役所職員（高齢福祉課、地域包括支援センター）

7

第1回実行委員会の様子



8

モデル地区の設定

昭和40年代初めにできた戸建住宅団地。当時の現役世代が高齢化し、一人暮らし・高齢者世帯も多くなった。過去に孤立死が発生している地域である。

- 人口：602人
- 高齢化率：27%
- 世帯数：210世帯
- 65歳以上の
 - 一人暮らし世帯：25世帯
 - 高齢者世帯：26世帯

(H19.11.1現在、一人暮らし・高齢者世帯は民生委員調査による)

9

(1) 孤立死防止・早期発見のための体制整備

① 相談・連絡窓口の設置

高齢福祉課、地域包括支援センター

② 地域支援ネットワークの構築

モデル地区住民、地区役員、市役所、警察署、消防署、社会福祉協議会、在宅介護支援センター、介護サービス事業者、郵便局、新聞販売店、牛乳販売店、乳酸菌飲料販売店、鍵専門店とのネットワーク構築

10

③緊急時のための情報網・連絡体制の整備

独居台帳に「鍵を預けている人」を追記

《対象》

モデル地区の一人暮らし高齢者で、独居台帳の登録をしている25名（2名はモデル事業をきっかけに登録）

《結果》

- ・ 鍵を預けているのは17名、預けていないのは8名
- ・ 預けている相手の住んでいるところは
市内:7名 近隣郡内:1名 県内:8名 県外:1名

緊急時対応フローチャートの作成と活用（別紙1）
⇒連絡・協力体制を明確化

11

④孤立している高齢者への支援

地域包括支援センターを中心に、在宅介護支援センター等と協力して相談、支援、見守りを行う。

必要に応じて次のような制度・サービスも活用する。

- ・ 老人クラブ等の地域活動
- ・ 介護予防事業や介護保険サービス
- ・ 緊急通報システム
- ・ 乳酸菌飲料給付
- ・ 配食サービス

12

(2) 孤立死に関する調査・研究

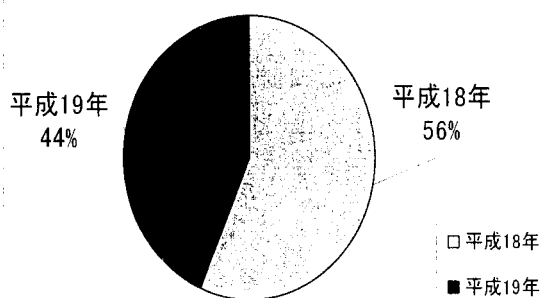
① 愛西市内における孤立死の事例収集、分析

孤立死の事例を収集・分析することにより、孤立死の要因を把握し、今後の予防、早期発見に役立てる。

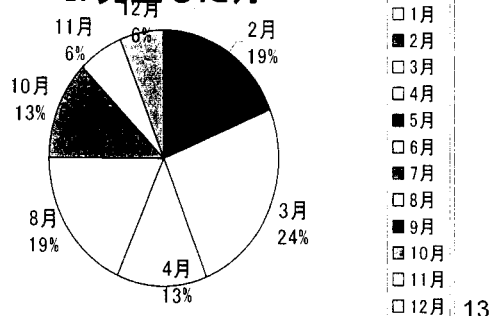
今回は、これまでに収集した29事例のうち、平成18・19年に発生した16事例について報告するが、今後も引き続き事例収集・分析を進めていく。

《平成18・19年：16件》

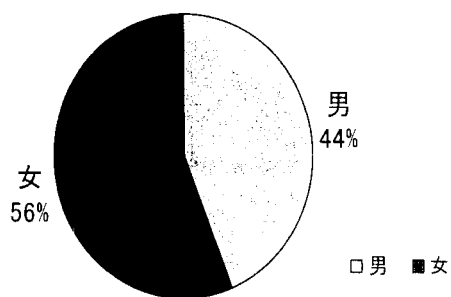
1. 発生した年



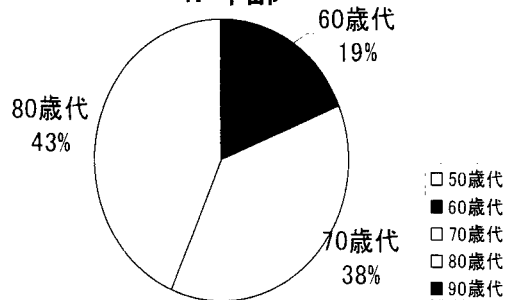
2. 発生した月



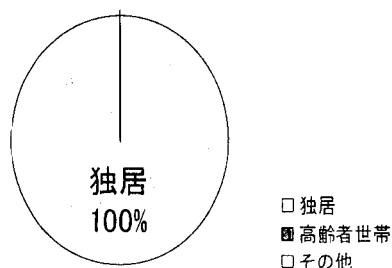
3. 性別



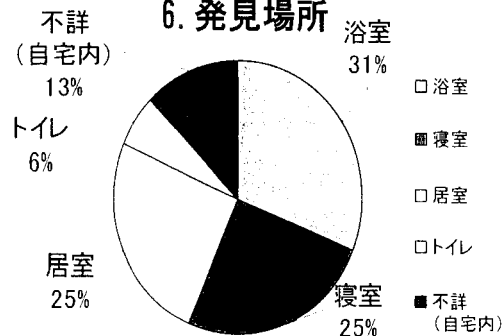
4. 年齢



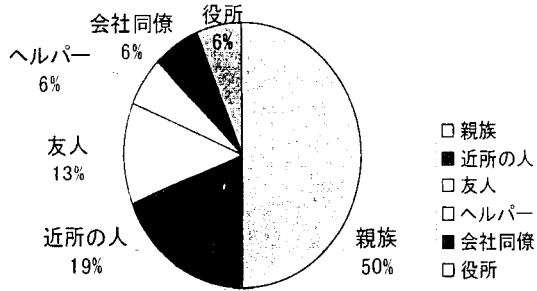
5. 生活形態



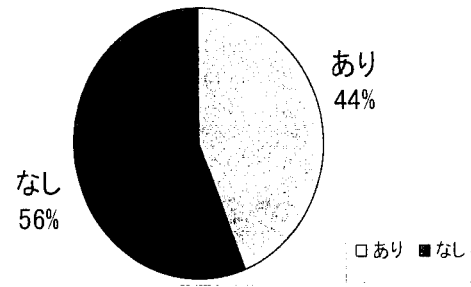
6. 発見場所



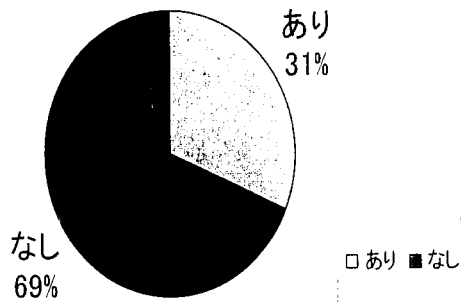
7. 異変に気付いた人



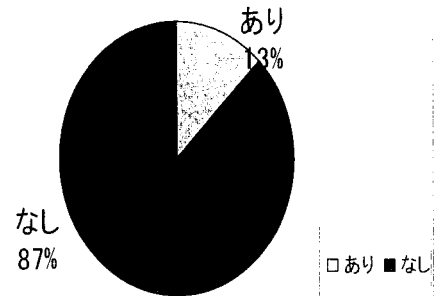
8. 緊急通報システム



9. 乳酸菌飲料給付



10. 配食サービス



15

《対応の際に困ること》

「他人の家に入る」ということの難しさ

鍵の所在がわからず、どのように家に入るか迷う
ケースあり。(早く対応すれば助かった可能性のある
ケースもある)

鍵専門店を依頼した場合の、経済的負担の所在？
(行政に予算的措置なし)

ガラスを割って入った場合、それに対する賠償責任
は？

16

②モデル地区住民の実態把握等のための調査

《内容》

親族・友人・近所との関わりや地域活動への参加の状況、外出の状況等に関するアンケート調査

《対象》

独居・高齢者台帳登録者

・一人暮らし：25名　・高齢者世帯：2名×25世帯→50名

《配付・回収方法》

自治会長と民生委員が配付・回収

《回収数》

・一人暮らし：24名（1名は拒否）

・高齢者世帯：49名（1名は入院中）

《結果》

別紙2のとおり

17

●今後の近所との付き合い方についての希望

1、これまで以上に地域でのつながりを持ちたい

- ・高齢とともに相互に助け合いが必要になってくるから。
- ・老人クラブを任されており、会員を一人でも多く増やしたい。
- ・高齢者同士でいろいろなことをして楽しみたい。
- ・地震、降雪、台風などの自然災害を考えたとき

2、現在と同じ程度の付き合いを希望

- ・近所に娘、家族がいますが、色々な面で近所は大事にして付き合いたい。
- ・お互いにトラブルを持つことは嫌です。交際範囲は多いのに越したことはありませんが、その分摩擦もあり、気を遣わなくてはならない。
- ・深入りしすぎるとプライバシーが侵害される。あまりお互いの家庭に入り込まないことが長続きする秘訣と思います。
- ・一人暮らしに慣れ、且つあまり健康ではないので出るのが億劫になる。
- ・現在の身体状況であれば「つかず、離れず」の状態が良いと思います。
- ・万一の場合に備えて近隣世帯とは今程度の接点は維持したい。災害等の時には助け合いたいと思っています。

3、地域での付き合いはあまり持ちたくない

- ・年が違う上の人の考え方についていけない。心に傷がつくから。
- ・他人の悪口やあげ足をとることが多い。噂話ばかりで進歩的でない。

18

●その他自由記載

- ・孤立死を避けたいと思えば、近所づきあいしかないと思います。
- ・1泊以上留守にする時はお互い近所への言葉掛けが大切だと思います。
- ・このアンケートで若い人たちの交流も必要と思いました。
- ・万一孤独死となっても止むを得ないことであると思うが、このようなことを心配していただけることは幸せなこととも思います。
- ・今までは死後の面倒は家族の責任であったが、これからは死後の責任を自分自身でとる時代であるともいえます。死に対する各々の教育が必要かと思います。孤立死とは他人に迷惑をかける行為ではないでしょうか。そういうように考えれば少しは孤立死も減ると思いますが・・・。
- ・有料でいいので、非常用のボタン式電話を希望。
- ・災害時等に備え自治会単位等での互助体制の充実を図る方策を検討いただきたい。
- ・地震の時の家具転倒防止に関する対処をしてほしい。費用は出します。
- ・病気になったときが心配。動けないとき、看病に来てくれる人があると心強い。
- ・軍人であった期間があったため、倒れるまではやり抜こうという意地があり、無理をしたりすることがある。やせ我慢である。

19

●わかったこと

独居高齢者も、高齢者世帯の高齢者も状況はほとんど変わらない。高齢者世帯の高齢者のなかにも、親しい親族、親しい友人、近所づきあいなどから孤立している人がいることがわかる。

近所づきあいに対する期待は薄い。このようなことから、孤立している高齢者に対する地域での取り組みの困難さが予想される。

「数日間・長期間看病や世話をしてくれる人」については、独居高齢者で「いない」という割合が高い。コミュニティレベルでの取り組みだけでなく、様々な福祉・医療サービスとの連携が必要であると考えられる。

孤立死のリスクに関しては、アンケート結果（量的把握）と孤立死事例調査（質的把握）を合わせて検討する必要がある。

20

(3) 孤立死防止・早期発見のための啓発

① 広報活動

※ 広報あいさい、福祉あいさい等による啓発

※ チラシ・リーフレットによる啓発

総代会、自治会、民生委員会、老人クラブ、婦人会、ケアマネジャー等介護サービス事業者等を対象に配付

21

② 講演会の開催

孤立死予防・早期発見のための啓発、モデル事業の報告等を行う。

対象：モデル地区住民をはじめとする市民、総代、自治会役員、民生委員、老人クラブ会員、婦人会会員、ケアマネジャー等の介護サービス事業者、関連行政機関等

講師：愛知県立大学文学部社会福祉学科
准教授 松宮 朝氏 他

22

モデル事業を行ってみて…

- 孤立死の発生件数が意外と多いことを知った。
- 孤立死は、身近に起こりうることであり、また、高齢者だけでなく、誰にも起こりうる問題であると思った。
- 実行委員会メンバーが予想以上に積極的で、孤立死に対する関心の高さを感じた。
- 孤立死予防・早期発見の必要性を感じ、今までやってみて効果的であると考えられることは、市内全地域に広めていきたい。

23

今後の方向性

- 人々の「見守り」は、場合によっては「監視」ととらえられ、お互いに暮らしにくさを感じる要因となりかねない。

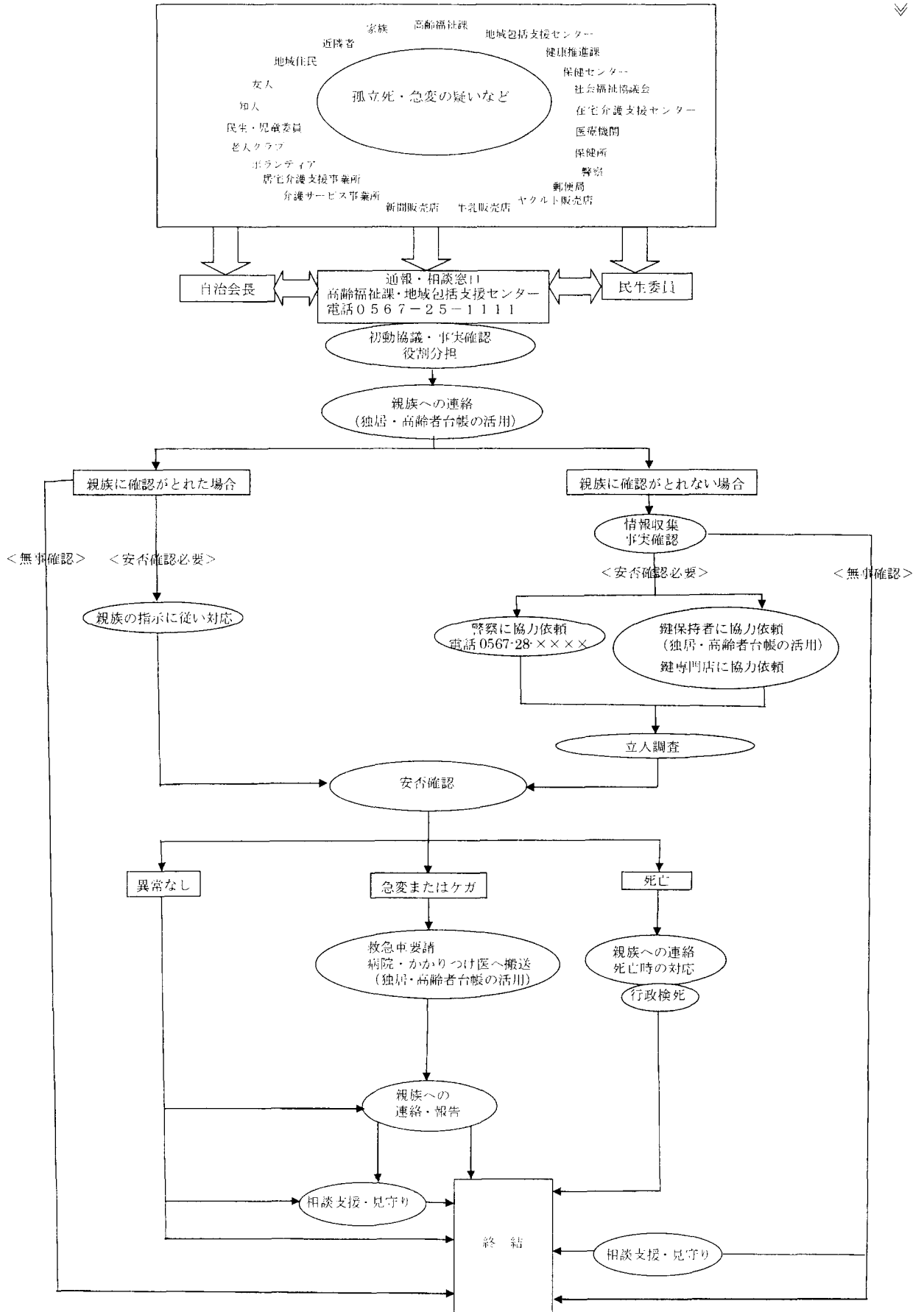
各個人が「自分は誰にどのように見守ってほしいのか」「緊急時にどのように対処してほしいのか」を考え、それを自身で相手に依頼できるようになると良いと思われる。行政は、そのための啓発、情報提供、体制整備、支援をしていく必要がある。

24

おわりに・・・

- 今後ますます増加すると考えられる「孤立死」。様々な地域での取り組みについて、情報交換することで、より効果的な方法を見出していきたい。
- 一人でも安心して暮らせるコミュニティとなるよう、私も尽力していきたい。

緊急時対応フローチャート



モデル地区調査集計表

1. 性別

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
男性	3	12.5	23	47.9
女性	21	87.5	25	52.1
DKNA	0	0.0	0	0.0
計	24	100.0	48	100.0

2. 年齢

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
60～64	0	0.0	0	0.0
65～69	2	8.3	15	31.3
70～74	9	37.5	11	22.9
75～79	7	29.2	16	33.3
80～84	4	16.7	5	10.4
85～	2	8.3	1	2.1
計	24	100.0	48	100.0

3. 居住年数

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
10年未満	1	4.2	2	4.2
10～19	0	0.0	5	10.4
20～29	0	0.0	7	14.6
30～39	4	16.7	2	4.2
40～49	19	79.2	32	66.7
50年以上	0	0.0	0	0.0
計	24	100.0	48	100.0

4. 健康状態

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
健康	6	25.0	12	25.0
どちらかとい えば健康	11	45.8	25	52.1
どちらかとい えば不健康	2	8.3	5	10.4
不健康	5	20.8	6	12.5
DKNA	0	0.0	0	0.0
計	24	100.0	48	100.0

5. 日常生活

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
何でも自分ででき、元気に 行動	13	54.2	34	70.8
障害はあるが、日常生活は ほぼ自分でできる	7	29.2	6	12.5
外出する際に介助が必要 室内での移動は可能だが、 ほとんど外出しない	2	8.3	3	6.3
室内の移動に介助が必要	0	0.0	1	2.1
DKNA	2	8.3	3	6.3
計	24	100.0	48	100.0

6. 外出頻度

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
ほぼ毎日	9	37.5	22	45.8
週に3～4日	11	45.8	18	37.5
週に1日程度	3	12.5	4	8.3
ほとんど外出しない	1	4.2	4	8.3
DKNA	0	0.0	0	0.0
計	24	100.0	48	100.0

7. 片道1時間以内の場所に居住する親しい親族

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
いる	19	79.2	41	85.4
いない	3	12.5	4	8.3
DKNA	2	8.3	3	6.3
計	24	100.0	48	100.0

7-1. 親しい親族との交流程度

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
直接会う	16	84.2	34	82.9
電話のみ	2	10.5	6	14.6
交流なし	1	5.3	1	2.4
DKNA	0	0.0	0	0.0
計	19	100.0	41	100.0

8. 片道1時間以内の場所に居住する親しい友人

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
いる	15	62.5	28	58.3
いない	6	25.0	15	31.3
DKNA	3	12.5	5	10.4
計	24	100.0	48	100.0

8-1. 親しい友人との交流程度

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
直接会う	13	86.7	25	89.3
電話のみ	1	6.7	1	3.6
交流なし	0	0.0	2	7.1
DKNA	1	6.7	0	0.0
計	15	100.0	28	100.0

9. 近所づきあい

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
よくつきあっている	7	29.2	10	20.8
ある程度つきあっている	8	33.3	18	37.5
あまりつきあっていない	6	25.0	13	27.1
全くつきあっていない	1	4.2	4	8.3
DKNA	2	8.3	3	6.3
計	24	100.0	48	100.0

10. 今後のご近所とつきあい方の希望

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
これまで以上	3	12.5	7	14.6
同程度	18	75.0	35	72.9
持ちたくない	1	4.2	3	6.3
DKNA	2	8.3	3	6.3
計	24	100.0	48	100.0

11. 参加団体

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
町内会・自治会	10	41.7	20	41.7
老人クラブ	7	29.2	14	29.2
趣味のサークル活動	6	25.0	16	33.3

その他	4	16.7	6	12.5
参加していない	8	33.3	14	29.2
計	24	100.0	48	100.0

12-1. 心配事や悩みを聞いてくれる人

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
いる	21	87.5	39	81.3
いない	3	12.5	8	16.7
DKNA	0	0.0	1	2.1
計	24	100.0	48	100.0

12-2. 思いやりや気を配ったりしてくれる人

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
いる	22	91.7	40	83.3
いない	2	8.3	6	12.5
DKNA	0	0.0	2	4.2
計	24	100.0	48	100.0

12-3. 数日間の看病や世話をしてくれる人

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
いる	17	70.8	38	79.2
いない	6	25.0	8	16.7
DKNA	1	4.2	2	4.2
計	24	100.0	48	100.0

12-4. 長期間の看病や世話をしてくれる人

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
いる	8	33.3	29	60.4
いない	14	58.3	17	35.4
DKNA	2	8.3	2	4.2
計	24	100.0	48	100.0

12-5. ちょっとした用事や留守番を頼める人

	独居		高齢者世帯	
	度数	比率(%)	度数	比率(%)
いる	18	75.0	33	68.8
いない	5	20.8	13	27.1
DKNA	1	4.2	2	4.2
計	24	100.0	48	100.0